



3学期は、今年度の取組を見直し、次年度の取組を考えていく時期です。

4月から長欠の生徒は
どれくらい増えているのかな？

不登校の生徒は、どのような
関係機関とつながっているのかな？

昨年度と比べると
どう変化しているのかな？

自分の学級や学年の様子は
わかるけど、学校全体では
どうなっているのかな？



次年度へ向けて（取組例）

生徒指導提要も参考にしてください →



◎生徒指導事案の対応について

- ・「学校評価アンケート」などを参考にして、いじめ、不登校、問題行動等に対して適切な対応ができていたか振り返る。
- ・修正が必要な場合は具体的な改善策を考える。
- （例）「誰が」「いつ」「何を」「どうする」、報告ルートの確認 など

◎不登校対策につながる
発達支持的生徒指導について

- ・学習のルールや集団生活のマナーについて、児童生徒とともに考える場や時間を計画する。
- （例）学級活動などの年間指導計画に位置付け
- ・児童生徒が「わかった」「できた」という達成感を実感できる授業づくりに向けた取組を明確化する。
- （例）校内研究を通して成果と課題を分析
- ・児童生徒の自発的・自治的な活動を取り入れた取組を計画・立案する。
- （例）委員会活動や行事等 など

◎校内の「いじめ防止基本方針」について

- ・いじめの定義や重大事態に対する対応について見直す。
- ・改善点を明確にし、加筆・修正を行う。
- ・「学校評価アンケート」や「生活アンケート」などを把握し、児童生徒の実態を全教職員で共有する。
- など

今年度の生徒指導の成果と課題を話し合う際に、毎月状況を報告している月例報告のデータを活用してみませんか？

月例報告から分かること

具体的な活用例

★不登校児童生徒の分析をする（昨年との比較）

【例：中学校の不登校の数から】

令和5年度 合計10名 → 3名の増となっているが
 令和6年度 合計13名 → 内訳を見てみると・・・

〈内訳〉（継続、新規に着目）

R5年度	R6年度	新規は5名
・3年生2名	→ (卒業)	
・2年生4名	→ 3年生3名 (継続3名 / 新規なし)	
・1年生4名	→ 2年生6名 (継続3名 / 新規3名)	
(6年生3名)	→ 1年生4名 (継続2名 / 新規2名)	

11名 → 継続は8名

Point! 学年や個人について経年での変化を追う

令和5年度に不登校であった生徒のうち、3人は
 復帰もしくは欠席が29日以下になっているな。
 何がきっかけになったのだろう。

Point! 月ごとの状況を確認し、その時の対応や支援を振り返る

新規の不登校生徒が5人いるけど、休み始めの
 対応はどうだったのだろう。未然防止のために何が
 できるかな。生徒指導提要で確認してみよう。

今年度の生徒指導のまとめとして、情報を共有しましょう。月ごとや経年で比較し、学校や学年の傾向の把握や対応の振り返りを行うことで、次年度へ向けての具体的な取組を考えていきましょう。

